一般口演19

口腔顎顔面痛症例報告 3 – Cracked tooth syndrome (CTS) と Atypical odontalgia (AO)

Case reports of orofacial pain 3 – Cracked tooth syndrome (CTS) and Atypical odontalgia (AO)

○岡安一郎, 鮎瀬卓郎, 大井久美子

Ichiro Okayasu, Takao Ayuse, Kumiko Oi

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科臨床病態生理学分野

Department of Clinical Physiology, Nagasaki University Graduate School of Biomedical Sciences

I. 症例 1

1) 患者: 50歳男性.

主訴: 左側の奥歯が噛むと痛む.

現病歴: 4, 5年前, 硬いものを噛んだ時に痛みを自覚するようになる. 3年前に歯科医院を受診し, 治療を行うも, その後も痛みが続く. 1年前から, 噛んだ時の痛みが強くなり, 2012年1月, 紹介元の歯科医院を受診する. 診査の結果, 特に原因となる所見は確認できなかった. 辺縁性歯周炎とブラキシズムを疑い, 歯周病の治療とスプリントによる管理を行った. その後, 疼痛は一時的に緩和されたが, 4月以降, 痛みが再発するようになる. 鎮痛剤の服用により, 痛みは一時的に軽減されるが, 診断が確定できず, 同年7月, 長崎大学病院オーラルペイン・リエゾン外来を紹介される.

既往歴: 30歳時より高血圧, 10年前に肺気腫, 気胸の既往あり.

内服薬: ベシル酸アムロジピン (5mg) 1錠.

家族歴: 父親が肝細胞癌.

2) 評価・診断・管理

痛みの問診¹⁾: 1) Location: left upper or lower molar, 2) Character: dull, 3) Intensity (Numerical Rating Scale: NRS): 5, 4) Duration: minutes, 5) Frequency: everyday, 6) Triggering or aggravating factors: eating/biting, 7) Improving factors: nothing, 8) Temporal patterns: all day, 9) Referral patterns: left temporomandibular joint, 10) Associated signs and symptoms: nothing.

現症: 上顎は右側第二大臼歯から左側第二大臼歯まで, 下顎は右側第二大臼歯から左側第二大臼歯まで残存し, 上顎右側第二大臼歯, 上顎左側第二小臼歯, 下顎左側第一大臼歯, 第二大臼歯にインレーが装着してある. パノラマエックス線写真および視診上, 歯, 顎骨, 口腔粘膜, 顔面皮膚に異常所見は認められないが, 歯の磨耗が顕著であった.

全ての歯において打診痛は認められないが, 上顎左側第一大臼歯部では, ロールワッテを噛ませることで疼痛が発現した. 冷水刺激, 電気歯髄診査に対する反応が認められたため, 生活歯髄であると判定した. 齶蝕検知液を使用して精査した結果, 上顎左側第一大臼歯咬合面近心から遠心の辺縁隆線を越えた隣接面までの歯冠近遠心方向に破折線が確認できた. 1/80000 アドレナリン添加2%塩酸リドカイン (歯科用キシロカイン[®] カートリッジ) を, カートリッジ用注射器を用いて, 同歯相当部歯肉頬移行部に1.8 ml 注入した後, ロールワッテを噛ませると, 浸潤麻酔施行前に認められた咬合痛は消失した.

以上の診査結果から, 上顎左側第一大臼歯における cracked tooth syndrome (CTS) と診断し, 同日, 当院保存科に治療を依頼した. 症状から破折線が歯冠部エナメル質表層に限局していると推測され, ガイドラインに随い, レジン充填による保存処置を行った. 再発防止として, 咬合負荷を軽減することが重要であることを説明し, 夜間のブラキシズム, 昼間の tooth contact habit 等のオーラルパラファンクションに対する生活指導を行った. その後の経過も問題なく, 当院での治療・管理を終了した.

3) 結語

CTSは、視診やエックス線写真による診断が困難な歯原性疼痛である。CTSの病態を理解し、診断にあたっては、病歴、自覚症状、他覚的所見の詳細な評価が重要である²⁾。

II. 症例 2

1) 患者：51歳男性。

主訴：就寝時に両側の奥歯が痛む。

現病歴：1年前から、就寝前に両側臼歯部に痛みを自覚するようになる。2012年6月、紹介元の歯科医院を受診する。軽度から中等度の歯周炎は認められたが、疼痛の原因となるような疾患歯は確認できず、同月、長崎大学病院オーラルペイン・リエゾン外来を紹介される。

既往歴：小児喘息の既往あり（小学生の時まで）。

内服薬：なし。

家族歴：父親が大腸癌。

2) 評価・診断・管理

痛みの問診¹⁾：1) Location:right upper and lower molar, and left lower molar, 2) Character : pulsatility, 3) NRS:6-7, 4) Duration : minutes, 5) Frequency : several times a week, 6) Triggering or aggravating factors : nothing, 7) Improving factors : candy, 8) Temporal patterns : night, 9) Referral patterns : nothing, 10) Associated signs and symptoms : nothing.

現症：上顎は右側第二大臼歯から左側第二大臼歯まで、下顎は右側第二大臼歯から左側第二大臼歯まで残存し、パノラマエックス線写真上、下顎両側完全埋伏智歯が確認できる。上顎右側中切歯、同側切歯、同第一小臼歯、上顎左側第二大臼歯、下顎右側第二大臼歯、下顎左側第一小臼歯にクラウンが、上顎左側第一大臼歯、下顎右側第一大臼歯にインレーが装着してある。パノラマエックス線写真および視診上、歯、顎骨、口腔粘膜、顔面皮膚に異常所見は認められない。

全ての歯において打診痛は認められず、筋と粘膜に対する触診においても、圧痛は認められなかった。

以上の診査結果から、非定型歯痛と診断したが、カウンセリングの中で、軽度の睡眠障害（中途覚醒）が見受けられたため、睡眠管理を含めた疼痛管理を行っていくこととした。

疼痛管理³⁾として、最初に、病態および抜髄や抜歯など、侵襲的な治療の必要性がないことを説明し、疼痛時、疼痛部位には局所麻酔薬（表面麻酔薬）2%塩酸リドカイン（キシロカイン®ゼリー）を少量、塗布するよう指示した。9日後、痛みの程度はNRSで5~6と初診時に比べて軽減した。睡眠時の中途覚醒を改善する目的で、就寝前に、ベンゾジアゼピン系短期作用型睡眠薬 brotizolam（レンドルミン®）0.25 mg 1錠の服用とし、2週間分処方した。2週間後、痛みはほとんど気にならなくなるとともに、夜間の中途覚醒はなくなった。しかし、入眠までに時間がかかると訴えがあるため、睡眠薬をレンドルミンからベンゾジアゼピン系超短期作用型睡眠薬 zolpidem tartrate（マイスリー®）5 mg 1錠の服用に変更すると共に、生活習慣、睡眠指導を行った。2週間後、良好な睡眠が得られるようになるとともに、痛みもほぼ消失した。その後の経過も順調で、初診から3ヵ月後には歯科での管理を終了した。

3) 結語

私達は、非定型歯痛と診断した症例に対して、カウンセリングと睡眠管理によって症状を軽減することができた。

III. 文 献

- 1) Palla S, Goulet J-P (Sessle BJ, Lavigne GJ, Lund JP, Dubner R eds): The path to diagnosis. Orofacial pain: from basic science to clinical management, 2nd ed, Chicago, Quintessence, 2008, 135-143.
- 2) De Laat A, Palla S, Siqueira JT, Imamura Y (Sessle BJ, Lavigne GJ, Lund JP, Dubner R eds): Illustrative case reports. Orofacial pain: from basic science to clinical management, 2nd ed, Chicago, Quintessence, 2008, 219-221.
- 3) Baad-Hansen L: Atypical odontalgia-pathophysiology and clinical management, J Oral Rehabil, 2008, 35, 1-11.
- 4) Beaulieu P, Walczak J-S (Lavigne GJ, Sessle BJ, Choiniere M, Soja PJ eds): Pharmacological management of sleep and pain interactions. Sleep and pain, Seattle, IASP Press, 2007, 391-415.